有明医療センター 地域医療連携だより

小岱

第50号
2024年
1月発行

- 地域医療支援病院・地域周産期中核病院
- 心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院
- 脳卒中急性期拠点医療機関・回復期医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院
- 臨床研修病院（基幹型・協力型）
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 第2種感染症指定医療機関

新年のご挨拶

荒尾市病院事業管理者　大嶋壽海

あけましておめでとうございます。こころから新年のお慶びを申し上げます。当院は、令和5年10月に新築移転を無事終えることが出来ました。
開院したばかりの「荒尾市立有明医療センター」としては初めて迎える新年となりました。これはひとえに、連携機関、関係機関の皆様のご理解と、ご支援のおかげだと思います。

新年にあたり、荒尾市立有明医療センターのご紹介を改めてさせていただきます。新病院は274床（急性期病床232床、回復期リハ病床42床）構造は、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造（RC＋Sハイブリッド構造）、免震構造、地下1階・地上6階・屋上ヘリポートとなっており、災害拠点病院として地震や大雨による冠水等大きな災害にも耐え得る設計となっております。

新病院の特徴としては、①一般病棟の完全個室化、②外来診療が基本1階で完結できるワンフロア外来（歯科口腔外科は2階）、③救急部門の集約化（放射線機器や内視鏡室が救急外来と隣接、HCUや手術室、LDR、ヘリポートまで専用エレベーターで直結）、④災害拠点病院としての構造や装置（前述）、⑤多数の陰圧室やヘパフィルターを設置した感染症対策、⑥国指定がん診療連携拠点病院として、歯科口腔外科の新設やバイプレーン血管造影装置導入に伴う脳卒中急性期拠点病院と心筋梗塞等心血管疾患急性期拠点病院の充実等であります。

「荒尾市立有明医療センター」は引続き「いい病院づくり」をテーマに掲げ、荒尾市唯一の急性期病院、地域の中核病院として多くの医療・介護施設等との連携の輪を益々拡げていく所存です。新病院となり、新しい建物、最新鋭の設備を備え、最新でより良い医療の提供を目指して参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

院長　勝守　高士

明けましておめでとうございます。令和6年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。旧年中は当院の活動にご理解を賜わりご協力いただきましたことを衷心より厚く御礼申し上げます。

昨年は10月1日に待望の新病院：荒尾市立有明医療センターを開院することが出来ました。いままで病院の老朽化で皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたが、これからは清潔感のある新病院で病診連携を十分行うことが出来る体制となりました。開院後3ヶ月ほど経過いたしましたが、紹介患者数、救急車搬送数、入院患者数、手術数も順調に増加しています。また、荒尾の周産期医療を継続するために11月から新たに始まった荒尾市医師会と連携した周産期医療体制も順調に運営されており、11月、12月で約50例の分娩がありました。荒尾市歯科医師会の強い希望で開設に至った歯科口腔外科も紹介患者数・手術数ともに増加しており順調な滑り出しです。

当センターは地域がん診療連携拠点病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院、災害拠点病院としてその拠点機能を十分に発揮するための病院として設計いたしました。高齢化社会に対応するため動線を短くし、視認性の良い外来配置といたしました。感染対策およびプライバシー保護のために急性期病棟は全室個室としました。当センターは、これらの機能を十分活用して、荒尾市唯一の急性期病院として強固な病診連携を基に、地域住民の健康を守っていく責任があります。

今後とも皆様方と十分にコミュニケーションをとり、地域医療の推進を進めていく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

看護部長　東　かおる

明けましておめでとうございます。連携機関の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和５年 10 月１日に病院新築移転し、無事新年を迎えることができましたことは、皆様方のご支援の賜物と感謝しております。

新病院となり、新たに歯科口腔外科診療や荒尾市独自の産科オープンシステムも始まりました。急性期病棟は全室個室で感染対策やプライバシーの保持に配慮したつくりとなっており、患者さんは快適な環境で入院生活を過ごしていただけていると思います。

看護部では、新病院移転と同時に看護サービス提供方式を固定チームナーシングからセル看護方式に変更いたしました。セル看護方式とは、ナースの「動線」に着目し、改善手法を用い動線のムダを省き、少しでも患者さんのそばにいる時間を長くする看護サービス提供方式です。これまでは、患者さんの処置が終了するとそばを離れ、スタッフステーションに戻って看護記録や情報交換のカンファレンス、ケアに必要な物品の準備などを行っていました。　現在は、看護に必要な物品を積み込んだ電子カルテカートを活用し、できるだけ患者さんのそばを離れることなくケアや記録が行えるように取り組んでいるところです。

まだ、導入して間もないため課題は沢山ありますが、安全で質の高い看護が提供できるよう努力してまいります。

今後とも皆様方との連携を深め、地域中核病院として、地域住民の方々が、住み慣れたこの地域で安心して暮らしていけるように貢献していきたいと思います。

連携先の皆様方にとって本年が幸多き年となりますように祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。

診療技術部部長　堺　　峰崇

新年明けましておめでとうございます。令和6年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は連携機関の先生方をはじめ職員の皆様方には大型機械の共同利用等、ご協力ご支援を賜わり誠にありがとうございました。

さて昨年は、令和2年2月から流行が始まったCOVID-19の感染症法上の位置づけが5類に移行し、病院も感染拡大以前の姿を取り戻しました。今回のCOVID-19感染拡大は様々な困難をもたらしましたが、正常化した今、単純に感染拡大以前に戻すのではなく、この経験を踏まえ従来とは違う業務の見直しを行う機会にもなりました。また、昨年10月には念願の新病院での診療が開始しました。真新しい施設と設備は患者さんにとって療養環境として回復への希望が芽生え、スタッフにとっても誇りを持って医療サービスを行える環境が整いました。開院にあたってはハード面での変化に対して予想される業務の変更をシミュレーションし、既存のシステムの見直しと確認を何度も繰り返しました。そういう面では昨年度は例年より多くの業務上の変化に対応した1年でした。これらの経験を踏まえて、職員間には団結の心が強くなった気がします。

医療は時代の変化に関わらず普遍的であるべきところがありますが、一方で技術の進歩を含め時代に即したものとする必要もあります。診療技術部としては今年度も医療の普遍的なものは大切に守りつつ、進化する技術を取り入れながら業務をアップデートし、連携機関の皆様に高度な医療情報を提供できるように努めていきたいと存じます。

最後に、連携機関の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げるとともに、本年も引き続き荒尾市立有明医療センターをどうぞよろしくお願いいたします。

事務部長　長谷　慎一

新年明けましておめでとうございます。

連携機関、関係機関のみなさま方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は当院に対し、ご理解、ご支援を賜りご協力をいただきましたことで、地域中核病院としての役割を果たすことが出来ました、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は約3年間に及ぶ新型コロナウイルスも5月には5類になり、当院主催による地域連携の会をはじめ、院内クリスマスコンサート、忘年会等が4年ぶりに実施できました。

さらに当院としては、10年来の念願であった、新病院である「荒尾市立　有明医療センター」への新築移転が10月に無事実施できたことが令和5年の大きな出来事としてあげられます。病院の建物、設備、機器が新しくなり、これから、ますます、連携機関の方々と共に大きく飛躍する年となることを願っております。

荒尾市立　有明医療センターは、今まで以上に、皆様との連携を深めて、「患者中心の安全で質の高い医療の提供」を目指してまいりたいと思いますので、本年もよろしくお願いいたします。

昭和43年　中央病棟完成時

令和5年　新病院

屋上ヘリポートの設置

救急科　松園　幸雅

新病院オープンに伴い、当院では屋上にヘリポートが設置されます。

病院ヘリポートとして、ドクターヘリ、防災消防ヘリ等により、緊急重篤患者が当院へ搬送されることになります。さらに緊急性においては若干の猶予のある病院間の搬送や臓器移植ヘリの受け入れまでを前提に設置しています。

今まではヘリコプターによる緊急重篤患者の搬送は、臨時の離着陸場（ランデブーポイント）として荒尾消防署（災害情報指令センター）に隣接する地上ヘリポートを利用して、その後、救急車で当院に搬送していました。また、当院でも治療が難しい重篤患者の救命救急センター等の高次医療機関への病院間転送の場合は当院から救急車で離着陸場まで搬送して、ヘリコプターに引き継ぎを行っていましたが、当院の屋上ヘリポートで離着陸できるようになると、離着陸場と当院の間の救急車での搬送が短縮され、より早くより円滑に患者の受け入れあるいは転送ができるようになります。

運航時間は原則として午前8時30分から午後5時15分までとなります。（ただし、日没時間等を考慮して、運航時間は変動します。）

去年11月22日にはドクターヘリ、12月5日には防災消防ヘリの屋上ヘリポートを使った訓練を行いました。音は救急車のサイレン音程度で、離着陸の風も含めて安全に運航できました。

病院近隣の皆さまにはヘリコプターの離着陸時における騒音等で大変ご迷惑をおかけすることになりますが、どうぞ、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

ドクターヘリ

防災ヘリ

クリスマス会

ボランティア委員会

12月16日14時より「ブラザーズ」の皆さんをお招きし「クリスマス会」を開催しました。当日会場となった3階リハビリ室は、クリスマスツリーや3階東病棟に入院中の患者さんにご協力いただき作成した輪飾りが飾られ、色鮮やかで季節を感じられる空間になりました。今年は50人以上の入院患者さんにご参加いただき、大変喜んでいただけました。今回生バンドの演奏をしていただいた「ブラザーズ」は「南こうせつとかぐや姫」の元メンバーだった方が在籍する、大分で活躍されているグループです。「ブラザーズ」の皆さんには「四季の歌」や「上を向いて歩こう」などの名曲やお馴染みのクリスマスソングを演奏していただきました。寒さが身に染みるこの季節に、温かい音楽を響かせてくださった「ブラザーズ」の皆さんの演奏に、会場が一体となって、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりの開催となった本イベントは、同時に、新病院へ移転後初の開催でもあります。そんな、以前とは異なる新しい状況下での開催となった今回の経験をもとに、今後も患者さんに喜んでいただけるような委員会活動を行っていきたいと思います。

大型機器
紹介
放射線技術科

検査をサポートするCアーム型のX線TVシステム「Ultimax-i」

近年、X線TVシステムは、各診療科の多様な要求に応える装置としてのあり方が期待されている。特に、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）関連手技などのX 線を用いた胆・膵内視鏡検査の件数は増加傾向にあり、他検査でも有用性の高いモダリティである。

需要が高まりつつある透視検査について、高画質、低被ばくで、使いやすさを追究したキヤノンメディカルシステムズのC アーム型の多目的デジタルX線TV システム「Ultimax-i」を紹介する。

① Cアームにより得られる最適な視野

Ultimax-iのCアームは、スムーズなLAO/RAO、CRA/CAUの角度づけによってさまざまなアングルの観察を実現する。例えば、ERCPにおいて脊椎やスコープと胆管が重なる場合、術中に重なりのない視野を得ようと、麻酔で眠っている患者の体位を変換させることは容易ではない。また、胆管穿刺しているような場合に患者を動かすことは危険を伴う。しかし、Cアームを回転させれば、患者の体位はそのままで、正確な処置をサポートする視野が得られる。

② アンダーテーブルチューブによる術者被ばくの低減

検査数の増加に伴い、被ばくの低減は重要な課題である。Ultimax-iは、術者やスタッフの被ばく低減に着目し、アンダーテーブルチューブでの検査が可能である。術者被ばくの主な要因である患者や天板からの散乱線量を比較すると、オーバーテーブルチューブはX線管に近い術者の上半身側の量が多く、アンダーテーブルチューブは術者の下半身側の線量が高い。アンダーテーブルチューブとX線防護垂れの組み合わせは、術者を散乱X線から防護しやすく、適切な被ばく低減を実現する事ができる。

病院理念

荒尾市立有明医療センターは、
地域住民の健康の維持・増進に努め、
患者中心の安全で質の高い
医療の提供を目指します。

基本方針

1. 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

患者さんの権利と責務

1. あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。
2. あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。
4. あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。
5. あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。
6. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。
7. 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。
8. 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市立有明医療センター　地域医療連携だより
「小岱」第50号 2024年1月発行
発行：荒尾市立有明医療センター　患者サポート・医療連携室　連絡先：〒864-0041 熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115　FAX：0968-62-4543　メールアドレス：bsn@hospital.arao.kumamoto.jp